

高砂堀川周辺まちなみだより 第8号

コミュニティセンターでの展示会(今までの成果)と明石高専学生による調査の報告

発行 2003年 3月 25日
発行元 堀川周辺のまちなみを考える会
事務局 高砂市役所都市整備部計画課

連絡先
TEL 0794-43-9033 / FAX 0794-43-9091
E-mail : t a c t3810@city.takasago.hyogo.jp

「29 町の看板」と「高砂堀川再発見地図」 の展示会を行いました！！

日 時： 平成 15 年 2 月 25 日（火）～3 月 3 日（月）
場 所： 高砂地区コミュニティセンター 1 階ロビー

展示内容： 29 町 町名看板完成品の展示

高砂堀川再発見地図

まちづくり経過報告と今後の進め方についてのパネル展示

兵庫県まちづくりセンター講習会で作った作品展示

去る平成 15 年 2 月 25 日（火）～3 月 3 日（月）、高砂地区コミュニティセンター 1 階ロビーで「29 町の町名看板と高砂堀川再発見地図の展示会」を開催しました。

展示期間中に展示会を見に来て下さった方々は延べ約 630 人と、地区内に居住されている方や、高砂小学校の児童や高砂市内に居住されている方、また姫路、加古川、播磨町、神戸や県外の方も中にはおられ、多くの方が見学にいられていました。

平成 15 年 2 月 25 日の神戸新聞 東播面にも「高砂市高砂町 歴史豊かな町並み保全へ、29 町の紹介看板展示、再発見地図を作製」と大きく取り上げていただき、3 月 5 日の産経新聞にも掲載されました。

堀川周辺のまちなみを考える会を発足してから、現在まで取り組んできた成果の一部を形として、多くの方々に紹介できた良い機会になりました。



平成 15 年 2 月 25 日（火）神戸新聞 東播面引用

29 町 町名看板の展示

展示内容の中でも、特に皆さんが興味を持って見ておられたのは町名看板の展示コーナーで、ひのきの板に手書きで丁寧に書かれた町名の由来を熱心に読んでおられる方々の姿が印象的でした。この看板は、展示会終了後に各町の自治会長さんにご協力頂き設置する作業にとりかかっています。



きれいな看板が完成したね !!



町名の由来は勉強になるね !



私の町の看板はどれかな !!



看板の設置が楽しみだ !!

高砂堀川再発見地図

高砂堀川再発見地図(3,000部印刷)は、展示会場では期間中に約500部配布しました。また、市役所3階や高砂公民館、生石研修センターに設置していたものも残り少なくなっています。



ご意見・ご感想をいただきました !



小学生も見学に !!

まちづくり経過報告とその他の展示

まちづくり経過報告コーナーでは、堀川周辺のまちなみを考える会のこれまでの活動と今後考えられる取り組みをパネルで紹介しました。

また、昨年、兵庫県まちづくりセンター主催で行われた高砂町を対象地区としたまちづくり実践ゼミで作製された図面や模型の展示も行いました。

まちづくり経過報告コーナーで展示されていたパネルにつきましては引き続き高砂地区コミュニティセンター1階ロビーに展示しています。



みなさんからのご意見・ご感想！

展示期間中、見学に来られた方々のご意見・ご感想をお聞きするため、展示会場に「ご意見・ご感想箱」を設置しました。

ご記入いただいた内容をご紹介します。

(展示内容全体について)

- ・ 高砂の町って歴史があるんだなとびっくりしました！この催しは新聞で知って来ましたが、また友達と来たいと思います。
- ・ 今日は大変良いものを見せて頂き、心から感動いたしました。高砂の古い良い物を住民一体となって末長く残していきたいものです。作製された皆々様の努力、本当にご苦労様でした。博物館ができれば最高ですね。
- ・ 堀川周辺のまちなみを考える会の活動に参加したいと思います。
- ・ 以前から古い建築物やまちなみに興味があったのですが、ここ高砂は町全体がほぼ昔のまま残っていることに加え、町名もそのまま残っているという全国的にも珍しい所と言えます。開発や新しいものをつくるだけでなく、今あるものを活かして、人が集まるようにし、文化に誇りが持てるようにすべきだと思います。これは、私の住む加古川でも十分に応用できる事だと考えています。周辺地域全体で「また来たくなるまち」を作っていきたいものです。
- ・ この度の企画は大変喜ばしいもので、継続的なものになって頂きたいと思います。高砂の町にも謡曲・湊町・あなご等色々なあこがれを持って来られる観光客にも優しいまちなみ保存に発展していけばと願ってやみません。

(看板について)

- ・ なかなかカッコいい看板ができていて素晴らしい！もっと話し合いを重ねて、この堀川のまちなみを良いものにしていって下さい。頑張ってください！
- ・ 色々な町内のことが書いてあり分かりやすい。読みがいがある！
- ・ 看板業者さんが墨で書いた文字は1つでも間違えたら、また最初から書かないといけないと聞きました。すごいと思いました。
- ・ 看板には色々なまちのことが書いてある。屋号がつきそうな旧家がありながら、屋号の名称、紋章がないのが残念です。

(堀川周辺再発見地図について)

- ・ 地図は分かりやすい。
- ・ 再発見地図 番のキリシタン灯籠は延命寺にあるので表示が気に掛かります。地図のままでは十輪寺と間違えてしまいそうです。南渡海町の端の潮見地蔵がありますが抜けているのではないのでしょうか？
- ・ 高砂城の内堀が堀川であり山陽電車北側が外堀になっていたのではないですか？
- ・ 墓所に先人の墓があるのだから著名人の紹介をして欲しい。
- ・ 再発見地図と著名由来をセットで配布すると長老や郷土歴史家の意見が伺えるのではないかと？
- ・ 少しずつ充実し、小中学生の教材に活用してはどうか！
- ・ 堀川及び東浜の川筋には蔵元商売人の旧家があったようですが？
- ・ 今津町の由来 対岸より 1000 軒が移住し町名を残して欲しいという要望があった。
- ・ 細工町の由来 指物大工的な細かい仕事をする人達の集団として付けられた。
- ・ 木曾町の由来 西の浜と言われながら今回町名看板が作られていないのはなぜ？
- ・ 大工町の由来 建物大工ではなく船大工的な仕事をする人達の集団。船作りの町（船大工の町）と表現してはどうか。
- ・ 舟運関係、開発新田の様子、綿作りなどの歴史を取り上げないのですか？

これまでの流れとこれからの取り組み！

堀川周辺のまちなみを考える会では景観形成について次のような学集會を行ってきました。

第1回 学集會 2001. 3. 25

- ・ 講演「まちなみの形成はどうして行うのか
～景観形成地区の事例から学ぶ～」

第2回 学集會 2001. 7. 12

学集會の流れ

まず自己紹介でウォーミングアップ

- ・ とにかく堀川周辺の景観形成についての意見を出そう
- ・ 堀川周辺へのまちなみへの思いを明らかにする
- ・ 堀川周辺のまちなみを考える会は今後何を行うか？

第3回 学集會 2001. 11. 23

くまなく歩いて堀川周辺地区のまちなみ再発見・再点検

第4回 学集會 2002. 2. 11

- ・ 高砂まちなみマップを広げて内容のチェックと活用方法について話し合おう
- ・ 高砂町の町名看板について形状と記載事項の検討を行う

【学集會の様子】



第5回 学集會 2002. 6. 15

高砂まちなみマップの内容と活用方法を最終チェックしよう

- ・ 高砂町名看板の形と記載内容、設置場所を考えよう
- ・ 景観形成地区の基本計画案について考えよう

第6回 学集會 2002. 8. 12

- ・ 高砂町名看板の形と記載内容を考えよう
- ・ 高砂まちなみマップの印刷費の捻出、活用方法について考えよう！
- ・ 景観形成地区について考えよう

第7回 学集會 2002. 10. 17

- ・ 高砂町名看板についての報告
- ・ 高砂まちなみマップの印刷費捻出方法について考えよう！
- ・ 景観形成地区について学習しよう！

これまでの取り組みの成果として「町名看板」と「堀川周辺まちなみマップ」が完成しました！

以上のように、堀川周辺のまちなみを考える会では景観形成地区について学習したり、堀川周辺地区のまちづくりについて話し合う学集會を行ってきました。

今後は、このような取り組みをより発展させるために自治会の協力もお願いして、地区のみなさんやまちづくりに興味を持っている方々、まちづくりの専門家、行政が三位一体となってまちづくりを進めていきたいと考えています。

明石高専の学生さんの

報告します

堀川周辺地区を対象とした卒業論文が完成しました！

この春、明石高専を卒業する八木研究室の学生 2 名が、当地区を対象とした卒業論文を作成し、先日学内で発表会が行われました。

昨年 4 月以降、堀川周辺のまちなみを考える会 学習会への参加や、現地調査等を通して地域住民の方々にたくさんのご協力を頂きました。

その成果の概要を報告させていただきます。

テーマ「高砂堀川周辺地区における町屋外観類型化」 赤井 義幸

研究の目的

町並みの変容を抑制するためには地域的特性を把握し、その内容を一般に公開し、その上で地域住民も参加したまちづくりを進めていくことが必要であると考えられる。そこで本研究では、町屋の特性を調査し、集計・グラフ化、町並みデータベースの作成、町屋外観類型化を行い、地域特性を把握する。

研究の方法

- (1)高砂町における伝統的町屋特性を把握するための調査シートづくり
- (2)調査シートを用いた現地調査、通りに面する連続写真の撮影
- (3)調査結果の集計・グラフ化、及び連続写真の合成
- (4)町並みデータベースの作成
- (5)集計結果・町並みデータベースを用いた町屋類型化
- (6)類型化の分布地図を作成
- (7)分布地図、集計データ、町並みデータベースを分析し、堀川周辺地区における地域特性を把握する

まちなみデータベースとは？

調査シートを用い、現地調査した結果をもとに地図上に色を塗り、項目ごとの分布状況を把握するためのエクセルのデータベースである。

地図と個別データ・個別写真・連続写真の関連付けによってデータの管理・更新を容易に行うことができるという特徴をもつ。

調査対象地区

高砂堀川周辺地区には、現在 1500 軒余りの住宅があるが、本研究では伝統的町屋を有し、景観を形成している地域を対象地区として選定した。(藍屋町、魚町-今津町、釣船町-田町、西宮町の 332 軒)

町屋外観類型化

調査結果を分析した結果、堀川周辺の町屋特性は大きく次の 5 タイプに分けられることが分かった。

- Aタイプ** 戦前から改築・改修なしに残る、伝統的町屋。特徴としては、1階・2階部分共に伝統的町屋の特徴と考えられる、屋根形状、格子、うだつなどの特徴が残る。
- Bタイプ** 戦前に建築されたが、1階部分のみ改修・改築をした民家。特徴として1階部分は改修されており、モルタルやタイルが用いられているが、2階部分には出桁や格子・うだつが残る。
- Cタイプ** Bタイプ同様、戦前に建築されたが、1階部分は改修・改築され、また2階部分も部分的に改修が加えられているタイプ。格子やうだつなど伝統的町屋の特徴が一部残る。
- Dタイプ** 戦後建てられた建物、もしくは戦後大きく改修・改築をした建物。特徴としては、外観はモルタル、サイディングなど、サッシはアルミと伝統的町屋の特徴とは異なる要素が多く含まれる。
- Eタイプ** 戦後建てられたが伝統的町屋の特徴を有している建物。特徴としては、外観仕上げはモルタルやタイルを使用しており、屋根は棧瓦葺き、平入り、窓にはアルミサッシもしくは木製の格子などが使用されている。

結論

藍屋町にはBタイプが多い、釣船町-田町はDタイプが多い、魚町-今津町にはAタイプ・Eタイプが多い。また、空家が多数ある事が分かった。これらの結果を踏まえ、特徴を活かしたまちづくりを進めていくことが重要であると思われる。

テーマ「高砂堀川周辺地区における、まちなみデータベースによる景観形成基準づくり」 岩本 泰明

研究の目的

歴史を積み重ねた建物は素晴らしい魅力を秘めており、地域独特の町並みが醸し出す個性を活かした景観づくりが進められれば、その町はさらに魅力を増すと考えられる。そこで、堀川周辺地区に残る伝統的な町屋の外観の調査を行い、町並み景観を継承していくための景観形成基準（案）を作成する。

研究の方法

- (1) 関係文献や資料による情報収集
- (2) 現地調査によるデータ収集
- (3) 町並みデータベースの作成
- (4) 町並みデータベースの分析
- (5) 兵庫県各地の景観形成基準の分析
- (6) データベースの分析結果に基づく景観形成基準（案）の作成
- (7) 既存の景観形成基準との比較
- (8) 最終的な景観形成基準（案）の作成

景観形成基準とは？

個性ある景観形成のため、歴史的な雰囲気を持った地区や新しいまちづくりを行う地区を「景観形成地区」に指定し、景観を形成するためのルールを地元住民が主体となって作成します。このルールを景観形成基準と言います。

外壁塗装や屋根の色、壁面の位置や、建物の高さ等、景観形成に関する内容等について基準を設けることができます。

調査対象地区

高砂堀川周辺地区には、現在 1500 軒余りの住宅があるが、本研究では伝統的町屋を有し、景観を形成している地域を対象地区として選定した。（藍屋町、魚町-今津町、釣船町-田町、西宮町の 332 軒）

堀川周辺地区の統計結果の分析

調査対象区域においては、2 階建てが 98% を占め、道路に面した壁面の位置は側溝を挟み約 0.5m、屋根は切妻平入りが多く、外壁は伝統的な町屋については黒漆喰、腰板は豎羽目板となっている。開口部は 1 階は格子が多く、2 階は手摺が多い。2 階袖壁を持つ建物は藍屋町では 50%、その他の地域では 3 ~ 15% と少なかった。

結論（高砂堀川周辺地区景観形成基準（案））

階数は 2 階以下とする。壁面は隣接する建物に揃えることとし、道路の境界線から 0.5m 程度、駐車スペースや前庭を確保するためやむを得ず後退させる時は門や塀を設置し町並みの連続性を損なわないようにする。等 屋根は切妻平入りを基本とし和瓦葺きとする、ただし角地は入母屋屋根、寄席棟屋根とする、1 階には周囲の建物と同じくらいの位置に庇を設けることとする。外壁については、1 階の腰壁は羽目板張り、下見板張りとし、通りに面する外壁については、漆喰塗り、板張り等の伝統的素材を使用する。開口部については、玄関及び 1 階の表の間の建具は、伝統的様式のものとし、材質は木製の建具の使用に努める。等 広告物・設備等については通りに面する部分に室外機などがある場合には通りから見えにくい場所に設置するか、意匠及び色彩に十分に配慮した目隠しを設ける。等

調査等へのご協力、本当にありがとうございました！

今後について

今後はこれまでの取り組みの成果を踏まえて、自治会のご協力も得ながら、景観形成地区の指定の検討など、景観を活かしたまちづくりに取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。